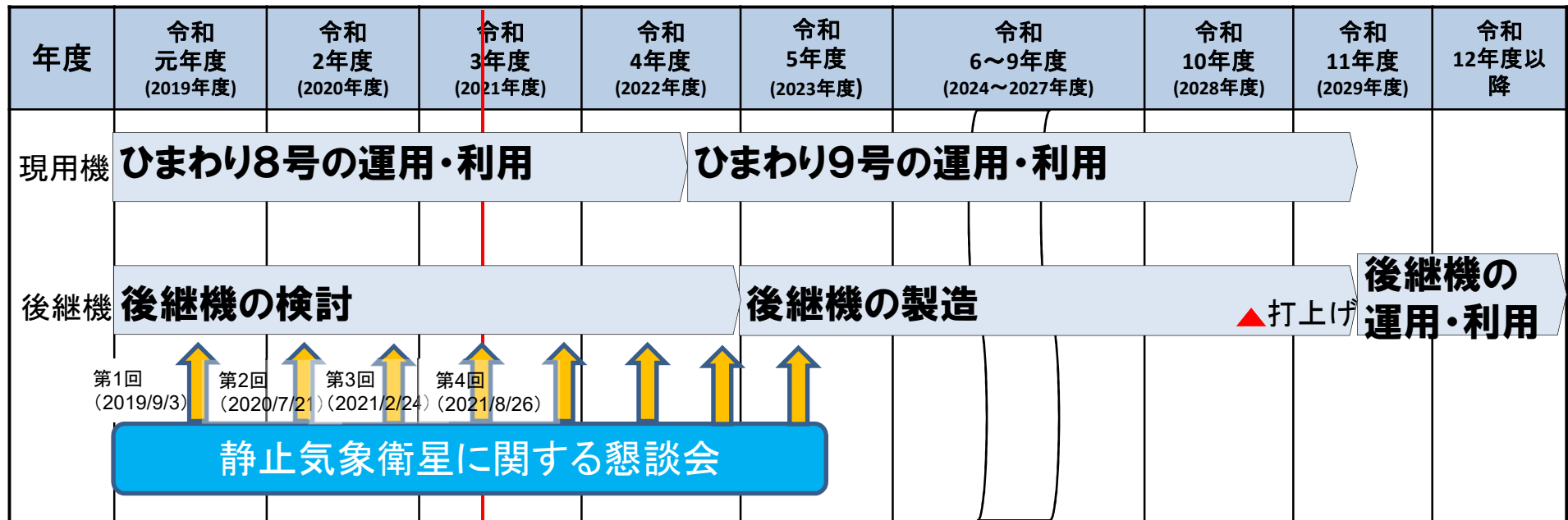


# 静止気象衛星に関する懇談会について ～これまでの検討と関連した取り組みの紹介～

令和3年8月26日

気象庁情報基盤部気象衛星課

# 静止気象衛星に関する懇談会



## 「静止気象衛星に関する懇談会」の開催状況

- 第1回（令和元年 9月3日）： 静止気象衛星ひまわりの役割・意義
- 第2回（令和2年 7月21日）： 国内外の技術動向、最新の科学技術の導入
- 第3回（令和3年 2月24日）： 民間のニーズ、事業実施方法
- 第4回（令和3年 8月26日）： さまざまな分野における利活用

# これまでの懇談会における主な結果

## 第1回（令和元年 9月3日） 静止気象衛星ひまわりの役割・意義

- 静止気象衛星「ひまわり」は、安全・安心な国民生活や社会経済活動に不可欠。
- 「ひまわり」の防災を軸とした公益性や社会貢献での意義は揺るがない。
- 「ひまわり」では新しい科学技術を導入して、国際的にも将来標準となる衛星を整備していくべき。

## 第2回（令和2年 7月21日） 国内外の技術動向、最新の科学技術の導入

- 赤外サウンダを導入することで、線状降水帯の予測精度向上に寄与しうる実験結果が示されている。
- 衛星センサの寿命が伸びるのであれば、1機ずつ順番に整備することで最新技術を導入可能にする方法もある。
- 民間での衛星データ利用を調査することで、後継衛星へのニーズを拾い出すこともできるのではないか。

## 第3回（令和3年 2月24日） 民間のニーズ、事業実施方法

- 「ひまわり」は気象だけでなく日本の社会全般で活用される共有財産であり、いわば「みんなのひまわり」と言える。気象のみならず国全体として横断的な議論をしていくことが大切。
- 後継機の運用事業の形態は、現行と同様に運用のみ（衛星製造や打ち上げは含まない。）のPFI事業とする方式が適切。
- 後継機のデータ活用の議論のためには、将来のデータ融合のビジョン等について、気象庁の推進する産学官連携も踏まえて、議論することが必要。

## 今回の議題

- 様々な分野におけるひまわりの利活用
- ひまわりによる国際貢献
- 将来の静止衛星観測に関する検討会(MInT)の活動報告